

旭山組 運行表



宵宮 登り山
7 土 20:30

本楽 おわた御渡り
8 日 9:00
旭山本陣前出発

最新の運行状況等は旭山組のSNSでチェック!

祭りの映像を中心にアップしていますので、ぜひご覧ください。

※開演時刻と位置については、作成時点(令和5年8月)のものであり、関係機関との調整や当日の天候によっては変更となる場合があります。

旭山組

三味線 豊澤 龍太
太夫 竹本 乾太夫
振付 千川 貴楽
三役



武智 十兵衛 光秀
森 勇悝 (六年生)



真柴 筑前守 久吉
土田 結琉 (二年生)



皐月 佐藤 虎之助 正清
後藤 樹 (三年生)



藤井 洸 (五年生)



初菊
小路 定政 (二年生)



武智 十次郎 光義
戸田 創一朗 (三年生)

絵本太功記
十段目 尼ヶ崎閑居の場
子ども歌舞伎役者
三番叟相つとめます



あらすじ

主君小田春永から辱めを受け、武智光秀は六月二日京都本能寺に陣を張る小田春永を夜襲して討ち取った。光秀の母皐月は息子の主殺しを良しとせず、尼ヶ崎の隠居所へ一人身を退いてしまった。
尼ヶ崎の閑居に住む武智光秀の母、皐月のところへ光秀の一子十次郎が出陣の許しを請いに訪れていた。
折しも光秀の妻操が十次郎の許嫁初菊を連れてきた。
謀反人を子に持つ母と夫に持つ妻は互いにわが身の因果を嘆いていた。今生の名残に十次郎と初菊は祝言の盃を交わし、十次郎は討死に覚悟で出陣していく。
旅の僧が一夜の宿を乞うて閑居へ来る。その後をつけてきた武智光秀は、この僧こそ正しく真柴久吉と見抜き、彼を殺そうと竹槍で襖越しに一突きするが、槍にかかったのは久吉でなく母皐月だった。
皐月は苦しみながら我が子光秀の不義不忠を嘆き諫める。妻操の「これ見たまえ光秀殿・・・せめて母御のご最後に善心に立ち帰るとたった一言聞かせてたべ」と哀願するくだりは最大の見せ場である。
そこへ深手を負った十次郎が帰り、味方の戦況の不利を伝え、父の身を気遣いながら息絶える。
進退窮まる光秀の前に、佐藤正清と旅僧から本性を現わした武将姿の真柴久吉が現れ、後日天王山で相まみえることを誓い、光秀を見逃し去っていく。